

平成 29 年度

北 区 学 校 フ ァ ミ リ ー  
事 業 報 告 書

東 京 都 北 区 教 育 委 員 会

## はじめに

北区教育委員会 教育長 清正 浩靖

北区は、平成15年度に「北区学校ファミリー構想」を策定し、他区に先駆けて、小中連携教育を推進してきました。

その成果を踏まえ、平成20年度には「小中一貫教育基本方針」を策定し、モデル事業を経て、平成24年度から「学校ファミリーを基盤とした北区の小中一貫教育」を全校で実施しています。現在、各サブファミリーが地域と一体となった特色ある教育活動に取り組むとともに、小中一貫カリキュラムを活用し、9年間を見通した教育を行っております。

本事業報告書では、各サブファミリーにおける1年間の交流・連携活動の状況と、「学校ファミリーを基盤とした小中一貫教育」の具体的な推進状況が記されています。今後、それぞれのサブファミリーにおいて、推進の一助として活用してほしいと願っています。

さて、平成27年3月に策定された『北区教育ビジョン2015』では、重点施策のトップに「地域と一体となった教育の推進」を掲げ、「サブファミリーによる特色ある教育の推進」「就学前教育・保育の充実」「将来を見据えた小中一貫教育の推進」を図るとともに、小中一貫教育の牽引役としての小中一貫校の検討や、認定こども園の設置検討を行ってきました。

小中一貫校については、平成30年3月に策定された『北区神谷中サブファミリー施設一体型小中一貫校全体構想』では神谷中学校サブファミリーを構成する稲田小学校、神谷小学校、神谷中学校を統合し、学校教育法に定める義務教育学校として設置し、学校教育における新たな取組に積極的にチャレンジすることで、教育内容のより一層の充実を図り、北区の教育が抱える諸課題の解決に資する学校となることを目指しています。

そして、北区における「小中一貫教育の推進役」として、その教育的成果を他の区立小・中学校に活用することにより、北区全体の小中一貫教育の更なる充実・発展を図ります。

また、北区小中一貫教育カリキュラムにおいては、平成30年4月から道徳が教科化され教科書を使用することに伴い、教科書に準拠した北区小中一貫カリキュラム（道徳科）を、北区立学校の道徳科カリキュラム作成委員の先生方のご協力をいただき作成しました。

今後も、北区教育委員会は、0歳から義務教育終了までの一貫した子どもの育ち・学びの系統性・連続性を踏まえた教育・保育事業をより一体的に展開してまいります。

関係者の皆さまには、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



# 目 次

## I サブファミリー事業報告

王子桜中・王子小・東十条小・さくらだこども園……………	1
十条富士見中・王子第二小・王子第三小・王子第五小・荒川小・十条台小 ・じゅうじょうなかはら幼……………	3
明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小・としま若葉小……………	5
堀船中・堀船小・滝野川第五小……………	7
稲付中・梅木小・西が丘小・うめのき幼……………	9
赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小・なでしこ小・第四岩淵小……………	11
桐ヶ丘中・桐ヶ丘郷小・袋小・八幡小・赤羽台西小・ふくろ幼……………	13
神谷中・神谷小・稲田小……………	15
浮間中・浮間小・西浮間小……………	17
田端中・滝野川第四小・田端小……………	19
滝野川紅葉中・滝野川第二小・滝野川第三小・谷端小・滝野川もみじ小 ・たきさん幼……………	21
飛鳥中・滝野川小・西ヶ原小……………	23

## II 参考資料

北区学校ファミリー構想概要……………	25
--------------------	----

# 王子桜中サブファミリー（王子桜中・王子小・東十条小 ・さくらだこども園）

## 1 交流・連携の方向性

### (1) 研究主題 **平成29年度 ～自己肯定感の高い子ども～**

「自分らしい生き方を実現していく幼小中のつながり」  
～N I Eを取り入れた、生きる力を育む幼小中一貫教育～

### (2) 研究の内容と方法

- 研究成果の継承と発展** 過去2度に渡る、幼小中一貫教育の研究成果を共有した上で、今年度の研究を進める。「知・徳・体」の3分野を8つのチーム（教科・領域等の8分科会）で編成し、研究主題に沿った教科の指導方法及び評価方法を授業（保育）に生かした上での授業研究に取り組み、更なる「自己肯定感の高い」幼児・児童・生徒の育成に努める。
- N I Eのつながり** N I E教育を連携の土台とし、朝のN I E・新聞タイムの実践における成果を検証し、工夫、改善を進める。幼・小・中の発達段階に沿い、新聞を授業の素材として活用するための教材開発に努める。
- 授業スタイルのつながり** 小1プロブレムや中1ギャップ等、校種が変わる度に起こる段差を解消することや円滑な接続を図ることを目的とし、幼小中一貫の共通した学習（保育含む）のスタイルづくりと実践を目指す。

## 2 具体的な活動

### (1) 調整や話し合い

- 第1回運営委員会【4月26日(水) 王子桜中にて】
  - ・組織及び研究内容の検討、年計画作成
- 第2回運営委員会【3月末 王子桜中にて】
  - ・1年間の反省、次年度計画の立案
- その他、全6回の研修会にて、分科会リーダー会議及び研究推進委員会を実施

### (2) サブファミリー全体での活動

実施日	会場校	取組	主となる活動内容
5月10日【水】	東十条小	ファミリー研修会	全体会：これまでの研究についての報告・研究方針の確認と具体的研究計画の検討 分科会：6/21の研究授業指導案検討
6月21日【水】	東十条小	第1回学校ファミリーの日	東十条小教員による研究授業 分科会での研究協議

8月28日【月】	王子桜中	ファミリー 研修会	講演会 分科会：9/6の研究授業指導案検討 幼小中交流親睦会（バレーボール他）
9月 6日【水】	王子桜中	第2回学校 ファミリーの日	王子桜中教員による研究授業 分科会での研究協議
平成30年 1月10日【水】	王子小	ファミリー 研修会	分科会：1/24の研究授業の指導案検討
1月24日【水】	王子小	第3回学校 ファミリーの日	王子小教員による研究授業 分科会(研究協議・紀要原稿の作成)

### ○研修講演会

「情報リテラシー」～メディアの特性をふまえた情報の取捨選択の重要性について～  
講師：鈴木 美潮 様（読売新聞記者）

### ○その他の活動

- ・王子桜中体育祭への小学生・こども園児童・幼児の参加
- ・中学生職場体験学習受け入れ（5日間）

## 3 成果と工夫した点

### （1）成果（1年間の研究を通して）

- 幼・小・中での成長の過程を共通理解した上で、幼・小・中それぞれの立場から学習のつながりを意識した学習指導案検討を行い、系統性をもった教材開発、教具の工夫、授業実践をすることができた。
- NIEを幼・小・中の学びのつながりの土台とすることで、ファミリー全体の読解力や新聞作成能力の向上に確実な成果を上げている。児童・生徒の言語活動の幅が広がり、表現力の育成につながられた。

### （2）工夫した点

- サブファミリー内の教職員のみ使用可能な特定公開フォルダーを有効活用した。学習指導案や各資料を入れることで、各教員が自由に閲覧・編集・検討をすることができ、作業の効率化と指導案検討の充実につながった。
- 夏季休業中の研修会の後に、幼・小・中の教員が合同チームを作り、スポーツ交流（バレーボール）を行っている。指導案検討だけでなく、共に汗をかきスポーツを行うことで、本サブファミリー内の交流がより親密になり、情報交換しやすい人間関係を構築している。

## 4 課題と改善の方向性

本年度も分科会形式で研究を進め、全体会においては今までの研究経過や成果を全員で共有できるようにした。今まで培ってきた授業スタイルのつながりを形骸化させずに続けていくとともに、生活指導のつながりをより深められるような研修計画も今後検討していくことで、3校1園の連携をより進めていく。

# 十条富士見中サブファミリー（十条富士見中・王子第二小・王子第三小 ・王子第五小・荒川小・十条台小・じゅうじょうなかはら幼）

## 1 交流・連携の方向性

- ・学校ファミリーの取組の柱「言語活動の充実 ～幼児・児童・生徒の主体的な学びの推進をする～」の推進。（6分科会での授業研究、講師を招聘による小中一貫教育研修）
- ・幼稚園・小学校・中学校の幼児・児童・生徒の発達や連続性を配慮し、小・中一貫カリキュラムを活用した幼・小・中一貫教育の推進。
- ・幼児・児童・生徒の交流学習の実施。地域行事を活用した連携活動の推進。

## 2 具体的な活動

### （1）調整や話し合いの実施

- ・校園長連絡会（年度当初、年度末に計2回開催）
- ・運営委員会（副校長・教務主任等）
- ・養護教諭連絡会など必要に応じて教員連絡会を設定

### （2）サブファミリー全体での活動

- ・授業研究会（年間3回） 6月21日（水）・9月6日（水）・1月24日（水）
- ・つまずきゼロプラン検討会 ・小学生の中学校体験入学
- ・各小学校において、保幼小間の交流給食事業・体験入学の実施や園児の凧揚げ大会
- ・中学生職場体験の幼稚園及び各小学校への受け入れ
- ・北区連合陸上記録会に向けて中学生による陸上競技指導 ・新1年情報交換会

### （3）「学校ファミリーの日」の授業研究会

第1回授業研究会 十条台小学校 授業13:45～ 協議会14:45～ 全体会15:35～				
分科会	教科	学年・組	単元名	授業者
1	国語	3年1組	本は友だち	山田美智代
2	生活科	2年1組	まちが大すき たんけんたい	伊藤 里絵
3	算数	4年1組	四角形をしらべよう	野澤 啓幸 田中 良明
4	道徳	1年2組	ぼくの あさがお【3-(2)自然愛】	田辺 莉奈
5	音楽	6年1組	いろいろな音のひびきを味わおう	岳本紗織里
	図工	1年1組	くるくるまわして	吉野木綿子
6	外国語	5年1組	おなかすいてる？	矢口 由子

第2回授業研究会 十条富士見中学校 授業13:45～ 協議会14:45～ 全体会15:35～				
分科会	教科	学年・組	単元名	授業者
1	国語	2年1組	言葉を比べよう	小幡 尚美
		2年3組	言葉の力	林 曜子
2	社会	2年2組	日本の諸地域 中部地方	細萱 仁志

3	数 学	3 年 3 組	2 次方程式	金城 龍弥 島田 正義
4	理 科	1 年 3 組	いろいろな気体とその性質 ～気体の区別～	星野 由佳
		3 年 1 組	太陽と恒星の動き	樋口健太郎
5	美 術	1 年 1 組	質問教室	伊藤 智也
	技 術	1 年 2 組	材料と加工に関する技術	猪俣 賢
6	英 語	2 年 4 組	“The Story of Sadako”	古谷ちひろ
【全体会（講演会）】講演「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」 講師 東京女子体育大学学長補佐 教授 田中 洋一 先生				

第3回授業研究会 荒川小学校 授業1 3:4 5～ 協議会1 4:4 5～ 全体会1 5:3 5～				
分科会	教 科	学年・組	単 元 名	授業者
1	国 語	3 年 1 組	人をつつむ形	越智 雄介
2	生 活	2 年 1 組	あしたへダッシュ	関 康子
3	算 数	6 年 1 組	資料の特ちょうを調べよう	望月 大輔
				河原 敦実
4	理 科	5 年 1 組	電流がうみ出す力	廣澤 綾子
5	道 徳	1 年 1 組	二わのことり	力石 真慧
6	外国語	4 年 1 組	泳げる？ Can you～？	倉持有加里
7	特別支 援教育	※巡回指導を中心とした特別支援教育についての研修・情報交換（巡回拠点王五小巡回指導担当、養護教諭、幼稚園）		
【各分科会講師】				
1…東京家政大学進路支援センターキャリア支援アドバイザー 三原 一浩 先生				
2…北区教育相談所副所長、元滝野川第五小学校校長 高松 幸裕 先生				
3…前第四岩淵小学校校長 山本 英一 先生				
4…王子第三小学校主幹教諭 橋本 暁 先生				
5…総合初等教育研究所室長 根岸 永福 先生				
6…北区外国語アドバイザー 片山 知子 先生				

### 3 成果と工夫した点

前年度に引き続き、「言語活動の充実」をテーマに、小学校では次年度より本格実施となる新学習指導要領を見据え、「主体的な学びの推進」に取り組んだ。各学校の特色を生かしながら、教育相談的な視点や「分かる・できる」の達成感につなげる視点から、分科会ごとに研究を深めることができた。また、第3回授業研究会では、特別支援教育の視点から幼・小・中の連携を深めることもできた。

### 4 課題と改善の方向性

幼・小・中の子どもの発達を踏まえ、新学習指導要領のもと、一貫教育の在り方について研究を深め、一層の具体化を図っていく。



# 明桜中サブファミリー（明桜中・王子第一小・豊川小・柳田小 ・としま若葉小）

## 1 連携の方向性

### 研究主題

キャリア教育を中心とした学力向上を特色として、以下の4つの柱で推進する。

- ①各校及びファミリー全体であいさつ運動を重点に円滑な連携を図る。
- ②学習意欲の向上を図り、子どもたち自身による学びの深まりを目指す。
- ③今の自分を見つめ、次の目標に向かって努力できるようにする。
- ④9年間の小中一貫教育の推進により、教育内容の一層の充実を図る。

## 2 具体的な活動

### (1) 日時・会場・活動内容

- 4月24日（月）15：30～明桜中 第1回運営委員会  
・組織づくり・今年度の活動方針と計画を確認、全体会の仕事分担
- 5月12日（金）15：00～明桜中 全体会・第2回運営委員会  
・平成29年度 明桜中SFの活動説明・授業研究分科会顔合わせ、役割分担
- 6月9日（金）15：00～王一小 授業分科会・第3回運営委員会  
・第1回授業案事前検討（王子第一小）
- 6月21日（水）13：45～王一小 研究授業・協議会・第4回運営委員会  
・王一小学校授業（10分科会）授業後、分科会ごとに研究協議会情報交換  
・阪急電鉄によるキャリア教育の授業を行う
- 6月27日（火）16：00～明桜中 第1回児童会・生徒会交流会  
・ニコニコスマイルプロジェクト会議（ニコスマ会議）  
ストップいじめ「私たちにできること」について検討
- 8月28日（月）14：10～明桜中 第2回授業案事前検討（明桜中）  
育ちの分科会「育ちのつながりを意識したキャリア教育について」協議  
（10分科会） 第5回運営委員会
- 9月5日（火）16：00～明桜中 第2回児童会・生徒会交流会  
・第2回ニコスマ会議  
各学校での生活状況、いじめ0について話し合い、ポスターを作成する。
- 9月6日（水）13：45～明桜中 授業・第6回運営委員会  
・明桜中学校授業（10分科会）授業後、分科会ごとに研究協議会  
・つまずきゼロプラン小中一貫学力向上部会（各校教務主任）
- 12月19日（火）15：00～豊川小 第3回授業案事前検討（豊川小）  
第7回運営委員会
- 1月24日（水）13：45～豊川小 研究授業・第8回運営委員会
- 2月5日（月）15：30～明桜中 第9回運営委員会  
・2月16日の全体会に向けて ・1年間の反省、来年度の活動内容の検討など
- 2月16日（金）15：00～明桜中 全体会・第10回運営委員会  
・各授業研究分科会より今年度の研究の成果と課題を報告

## (2) 分科会での活動

### ① 授業分科会

6月21日(水) 王一小、9月6日(水) 明桜中、1月24日(水) 豊川小において各教科及び道徳・特別支援の12分科会に分かれて研究授業を行う。(養護部は情報交換) 各分科会では次のことが話し合われた。

○学びのつながりから学習上の児童・生徒の課題と対応策を検討する。

○キャリア教育の観点から授業を見直し、課題を探る。

### ② 育ちの分科会

8月28日(月) 明桜中学校において学級づくり・学習習慣・言語活動・家庭学習・けがや事故の対応・特別支援教育のテーマで10分科会に分かれ、児童・生徒の実態、課題、対応策について各校からの情報交換をする。

## (3) 児童会・生徒会の交流

「いじめをなくすために、私たちに何ができるか」をテーマに、各小中学校ごとにポスターを作成し、模造紙に貼り学校掲示用ファミリーポスターを作成した。

## 3 成果と工夫した点

### (1) 【教科指導面での連携について】

① 教育活動の積み重ねをもとに、全体会での目標の確認や授業分科会で指導案の検討を行い、より良い授業を展開しようという意識が高まり、新学習指導要領の周知も行えた。

② 運営委員会で授業研究の報告を行い、それを「明桜中サブファミリー通信」にまとめ、全教員が情報を共有することができた。

《キャリア教育との関連》

① 指導案に、「キャリア教育とのつながり」や「キャリア教育の視点から見て特に重要なこと」を記述することが定着してきた。異動してこられた先生方も指導案を見ることによって明桜中SFの取組が理解できる状況にある。

② ゆめ・まちわくわくWORKプログラムを活用した2時間構成のキャリア教育の出前授業を王子第一小学校で行い、他の小中学校の先生方も王子第一小学校の研究授業で参観でき、研究協議や情報交換が有効に行えた。

### (2) 【生活指導面での連携について】

① 育ちの分科会は全員が6つの観点に分かれ、少人数で情報交換することで、小学校間の連携と小中間の連携が取れた。

② 各校の授業規律や生活のきまり等を持ち寄り、情報交換を行い9年間のつながりの中で児童や生徒を育てよう、指導しようという意識がでてきた。

## 4 課題と改善の方向性

① 中学校の指導案検討で2教科が出ていなかった。必ず指導案を検討し、より良い授業をSF全体で推進していく。

② 今後さらに、ICT機器の活用や「主体的・対話的で深い学び」の視点にたった授業をSFで推進していく。

③ 学級崩壊や荒れない学校を目指し、SF全体で児童・生徒の情報交換を密にする。

## 堀船中サブファミリー（堀船中・堀船小・滝野川第五小）

### 1 交流・連携の方向性

「情報活用教育（＝情報活用能力の育成）」を柱として、小中の連続した9年間の学びを視野に入れ、小中教員が連携した授業実践を行った。

本サブファミリーでは、育てたい生徒像、めざす子ども像を「知育」・「徳育」・「体育」にわけて次のように策定した。「知育」分野では「基礎学力を身に付け、自ら考える子」、「徳育」分野では「思いやりの心をもったやさしい子」、「体育」分野では「ねばり強く、最後までがんばる、げんきな子」を目指している。

具体的な組織については、下記の6つの分科会に編成して研究を進めた。分科会のメンバーは1年間固定し、同じ講師の先生からご指導をいただいた。

- ①国語 ②算数・数学 ③社会・理科<生活・総合>  
④英語・外国語 ⑤芸術・体育 ⑥養護

### 2 具体的な活動

5月10日 堀船中にて全体会（今年度の方針、組織、情報交換）

6月12日 堀船小にて分科会ごとに指導案検討会

6月21日 堀船小にて連携授業（第1回ファミリーの日）

【国語】	国語科	4年1組	吉川 陽子	教諭
【算数数学】	算数科三分割	6年1組	久保田美紀	教諭
		6年2組	田中 良治	教諭
		算数少人数	西脇 輝久	主幹教諭
【社会理科（総合）】	理科	5年2組	吉原 武久	教諭
【芸術・体育】	体育科	1年2組	相磯 良太	教諭
【英語・外国語活動】	外国語活動	2年2組	鈴木 統大	教諭

8月29日 堀船中にて夏季ファミリー研修（9月6日の連携授業の指導案検討）

9月6日 堀船中にて連携授業（第2回ファミリーの日）

【国語科】		1年1組	山岸 裕和	教諭
【算数数学】	数学科少人数	3年2組	奥村 准一	主幹教諭
			上原 広伸	教諭
【社会理科】（総合）	社会科	3年1組	島貫 勝義	主任教諭
【芸術体育】	体育科	2年男子	杉政 健	教諭
		女子	池田 麻美	教諭
【英語外国語活動】	英語科	1年2組	窪田 良行	教諭

11月2日 滝五小にて平成28・29年度北区教育委員会研究協力校研究発表会  
授業者以外は、分科会に関連する授業を参観（第3回ファミリーの日）

《研究主題》自分から考え、主体的に学ぶ児童

～伝え合い、高め合う活動を重視した問題解決型学習の充実～

公開授業 1-1	生活科「かぞくにここに大きくせん」	大石小百合	教諭
1-2	生活科「かぞくにここに大きくせん」	岩本 未央	教諭
2-1	生活科「作ってためして」	佐伯 陽子	教諭
2-2	生活科「作ってためして」	伊藤 善隆	教諭
3-1	理科「明かりをつけよう」	坂巻 博美	教諭
4-1	理科「物の体積と温度」	河手乃富子	教諭
4-2	理科「物の体積と温度」	石山めぐみ	教諭
5-1	理科「ふりこのきまり」	越智 妙子	教諭
5-2	理科「ふりこのきまり」	鈴木 誠	教諭

2月20日 運営委員会 今年度の反省と来年度の方針・計画検討 滝五小にて

《講師の先生方》(講師の先生を1年間固定)

国語	東京家政大学進路支援センター 進路支援アドバイザー	三原 一浩 先生
算数・数学	北区教育アドバイザー	中尾豊三郎 先生
社会・理科<生活・総合>	帝京科学大学教職特命教授	川上 彰久 先生
英語・外国語	亜細亜大学講師 前桐ヶ丘中学校長	永嶋 昌博 先生
芸術・体育	元北区立浮間小学校校長	伊田 周平 先生
《滝野川第五小学校 研究授業及び研究協力校研究発表会 講師》		
理科・生活科	東京家政大学家政学部児童教育学科 准教授	林 四郎 先生

### 3 成果と工夫した点

- ① 小中一貫した基礎・基本の定着のために、小学校二年生から中学校三年生までを対象に漢字コンテスト《漢字マイスター》を学年別実施した。合格者には、ファミリーから賞状を授与した。ファミリーの一員である意識が高まり、学びの意欲を高めることに繋がった。
- ② 各校におけるファミリー連携授業を行う際には、毎回指導案検討会の時間設定をすることで、教員同士のコミュニケーションの場がさらに増え、異校種の教員が気軽に学びに関する相談ができたことで、より良い連携が図られた。
- ③ 「情報活用教育」を柱とした研修テーマが明確に指導計画に位置づけられたことで、ICT機器を活用した授業や収集した情報を整理しての話し合い、発表する主体的な学習活動が行われるようになった。

### 4 課題と改善の方向性

- ① 小中一貫して、子供たちの思考力や判断力、表現力を育成するために、多様な情報活用の力を身に付け、子供たちの主体的・対話的な深い学びを実現していくことが課題である。そのために、いわゆるアクティブ・ラーニングを取り入れた授業スタイルの確立をめざし、さらにあいさつや授業規律の確立も含め、ファミリー全体で取り組んでいく。



第1回 学校ファミリーの日 堀船小



第2回 学校ファミリーの日 堀船中



第3回 学校ファミリーの日 滝五小 研究協力校研究発表会

## 稲付中サブファミリー（稲付中・梅木小・西が丘小・うめのき幼）

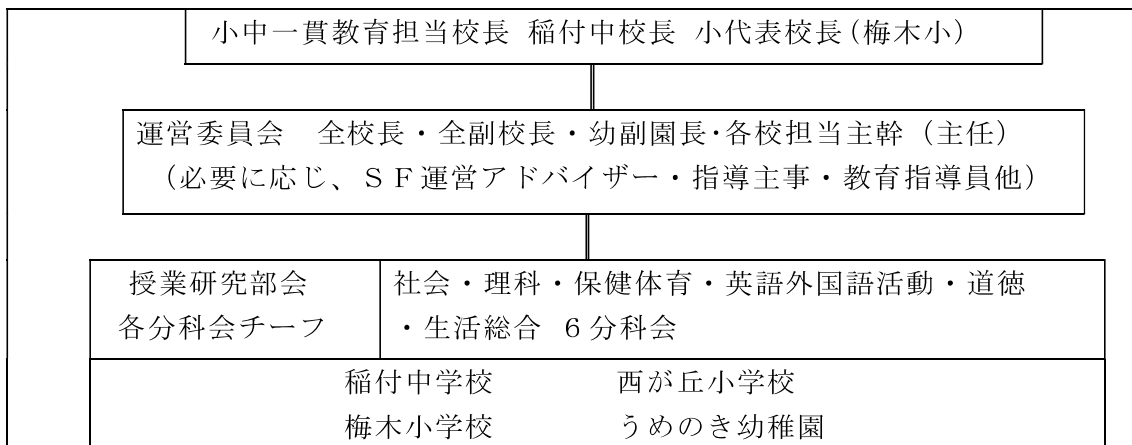
### 1 交流・連携の方向性

平成23年度に各学校の教育目標を持ち寄って稲付中サブファミリーとして目指す幼児・児童・生徒の姿を設定した。平成29年度は、その実現に向けて教育活動の連携・推進をさらに強化した。最近の数年間、教科分科会を中心に幼小中連携授業に取り組み、幼小中の滑らかな学びの連続性の深化が図れるように授業実践、協議・検討を進めている。今後も、幼小中の教員が継続的に連携・協働を進めたり、「つまずきゼロプラン」を作成したり、健康・教育相談についての情報交換を行ったりすることにより、幼小中の教育内容の相互理解・教員の指導力の向上・小1問題・中1ギャップ等の課題の解消に努めていく。また、稲付中サブファミリー3校が指定されている「オリンピック・パラリンピック教育アワード校」としての連携、合同行事の開催や、授業研究・体験教室の実施等協力して取り組んだ。

### 2 具体的な活動

#### (1) 稲付中サブファミリー組織構成

平成29年度



#### (2) サブファミリー全体での活動(年間計画)

実施日	会場	取組	内容
5月9日 (火)	稲付中学校	運営委員会①	組織編成・年間計画、 6月学校ファミリーの日計画
6月21日 (水)	梅木小学校 うめのき幼	授業参観 運営委員会②	研究参観・協議、全体会、分科会 分科会役割分担、連携授業の準備
8月30日 (水)	稲付中学校	連携授業 研究分科会	連携授業に向けての指導案検討
9月6日 (水)	稲付中学校	連携授業	教科分科会ごとに連携授業、研究 協議会、つまずきゼロプラン検討
12月19日 (火)	西が丘小学校	連携授業 研究分科会	連携授業に向けての指導案検討
1月24日 (水)	西が丘小学校	連携授業 運営委員会③	分科会の連携授業、研究協議会 研究のまとめ(成果と課題)
2月19日 (月)	稲付中学校	全体会・報告会 運営委員会④	アワード校取組発表会 各分科会報告、次年度へ向けて

### 3 成果と工夫した点

- (1) 今年度も9月と1月の連携授業実施に向けて、ファミリー一斉研修日を設定した。幼小中の教員が6つの分科会ごとに集まり指導案や指導方法を検討したり、役割分担をしたりすることを通して互いの経験や知識・技能、思いを伝えながら教材研究を進め、一人一人が当事者意識をもって授業研究に臨むことができた。
- (2) ファミリーの日3回全てで授業研究を実施した。授業後の6分科会では、北区小中一貫カリキュラムを基にした授業の振り返りや指導内容・方法の改善について協議したり、つまずきゼロプランを検討したりした。その結果、稲付中の1学年の平成29年度北区基礎・基本の定着度調査において、全国の正答率を各教科で上回ることができた。
- (3) 特定公開フォルダー〈稲付中SF〉は、研究授業の指導案検討や分科会運営に関する内容に留まらず、様々な情報交換の場として活用の幅が広がった。
- (4) オリンピック・パラリンピック教育アワード校(3校)として、2月19日(月)に稲付中学校で「オリンピック・パラリンピック教育アワード校取組発表会」を実施できた。研究授業や報告会を通して、サブファミリー間で情報を共有することができた。また、オリンピックの招聘はできなかったが、小学校2校合同水泳記録会を9月7日(木)に西が丘小学校で実施した。中学校進学前の6年生児童が一堂に会して親睦を深める機会を増やすことにより、児童相互の理解を深め、中学校入学後の好ましい人間関係の形成につなげることができた。

### 4 課題と改善の方向性

- (1) 授業研究での課題と改善
  - ・各分科会での授業は、必ず分科会のメンバーがTTとして入っているが、TTとして有効に機能する場合とそうでない場合がある。TTとして活用する場合と授業記録や児童観察記録などの場合と必要に応じて役割を変え、指導法を改善していく。
  - ・本時の授業を振り返るだけでなく、授業研究に「授業規律」、「発問の仕方」、「指導法の工夫」等の視点を設け、様々な角度で、授業分析、小中の連携授業の意見交流を活発に行う。3回の連携授業で分科会のテーマを決め、連携授業に幅や深まりをもたらすようにする。
- (2) 研究推進についての課題と改善

今年度から稲付中サブファミリーは3校が「オリンピック・パラリンピック教育アワード校」に指定されている。また、「オリンピック・パラリンピック教育」の年間指導計画を踏まえ、サブファミリー内で情報交換や共通理解を図りながら、オリンピック・パラリンピック教育の充実を図っていく。各分科会の研究にも、稲付中サブファミリーの特色である「オリンピック・パラリンピック教育」の視点を取り入れた授業を積極的に展開できるようにし、これまでの取組・開発の成果を生かして、さらなる発展へとつなげていきたい。

## 赤羽岩淵中サブファミリー（赤羽岩淵中・赤羽小・岩淵小・ なでしこ小・第四岩淵小）

### 1 交流・連携の方向性

児童・生徒の学習状況等の情報交換を十分に行い、小学校入学から中学校卒業までの一貫した指導に取り組む。授業においては、北区小中一貫カリキュラムを活用し、9年間を見通した小中の連続性のある指導を行う。

また「防災教育」に焦点を当て、「防災教育小中一貫年間指導計画」を策定するとともに、小中合同引取訓練や地域総合防災訓練など、保護者・地域と連携した小中一貫型防災教育を推進する。

#### (1) 運営組織

・運営委員会…各校長

○運営方針の決定、各校間で必要な調整を行う。

○時程・場所 いずれも午前10時から 赤羽岩淵中学校校長室

#### (2) 授業研究について

・授業研究を貫くテーマ「学習の連続性に着目した指導・評価の工夫」

・各分科会10部会（ ）内は運営委員…各校校長及び副校長

国語部会（赤岩中：井上校長）

社会部会（なでしこ小：石井副校長）

算数・数学部会（赤羽小：石塚校長）

理科部会（岩淵小：折本校長）

外国語活動・英語部会（赤羽小：飯島副校長）

体育・保健体育部会（第四岩淵小：堀江副校長）

音楽・図工・美術・技術・家庭部会（岩淵小：阿相副校長）

特別支援部会（赤岩中：井上校長）

養護部会（なでしこ小：大田校長）

防災部会（第四岩淵小：西幅校長）

※教員は上記10部会のいずれか1部会に所属

### 2 具体的な活動

・5月 2日（火）…合同引取訓練ののち、全体会、各部会、運営委員会（赤岩中）

・6月21日（水）…赤羽岩淵中学校で授業研究及び研究協議会（赤岩中）

※講師は各部会担当で手配

・8月29日（火）…防災講演会「学校・家庭・地域が一体となった地域防災」  
（赤岩中）

・9月 6日（水）…防災教育に焦点を当てた授業研究（なでしこ小学校）

・1月24日（水）…各小学校で授業研究及び研究協議会（各小学校）

※講師は各部会担当で手配

・2月13日（火）…各分科会の今年度総括（各小中学校）及び  
中3小6担当連絡会（赤岩中）

### 3 成果と工夫した点

- (1) 27年度から、10分科会に分かれて、小中が連携した授業研究を推進している。各分科会で教科ごとに小学校から中学校への学習の流れを意識し、「学習の連続性に着目した指導・評価の工夫」を研究のテーマに据え、2年間の研究を踏まえて更に内容を深化させることができた。研究の焦点を絞ることで大変成果があがった。
- (2) 防災引き取り訓練を小中が連携して同時に実施し、保護者が小学生を迎えに行ったその足で、中学校へ来るという訓練が定着し、全く混乱なく実施できた。サブファミリーの小中学校が同日に一斉に引き取り訓練をすることで保護者や地域の防災に対する意識は更に高まっている。
- (3) 北区防災学校・地域との合同防災教育授業・ファミリーの日防災研究授業・夏休み防災講演会など、各小中学校で実践的な防災教育に取り組み、特に地域自治会や消防署・各消防団が連携した防災訓練が継続的に取り行われている。
- (4) ファミリー小学校の6年生全員を対象にした中学校新入生体験授業の実施、ファミリー校展覧会作品交流展示、小学校音楽科による中学合唱コンクールの審査、PTA校外委員・PTA役員と学校関係者・赤羽警察が参加しての長期休業前のサブファミリー生活指導連絡協議会（夏・冬長期休業日前の年2回実施）など、関係諸機関・PTA・児童を巻き込んだファミリー間の連携行事で強固に結びついている。
- (5) 年度末に「小6」「中3」の担当者が情報を共有し、きめ細かい情報共有の結果、「中1ギャップ」の解消に努めることができた。

### 4 課題と改善の方向性

運営委員会で決定された運営方針をもとに、各校間で副校長・教務主任・各分科会のチーフと連絡を取り合い、情報共有を緊密にし、互いの連携を深めていくことが重要である。

また、各校の特徴を生かしながら、小中9年間というスパンで地域と連携した教育活動を推進するための効果的な研修内容を工夫する。



小学校の展覧会へ中学生が展示見学



第四岩淵小学校 防災研究授業



小中合同研修 防災に関する講演会



# 桐ヶ丘中サブファミリー（桐ヶ丘中・桐ヶ丘郷小・袋小 ・八幡小・赤羽台西小・ふくろ幼）

## 1 交流・連携の方向性

「何事にも意欲的に取り組み、自己有用感のもてる幼児・児童・生徒を育てる」というテーマのもと、子供の多様な課題に対応することを重点に、各教科・領域による提案授業に積極的に取り組み、幼小中の円滑な接続に努める。  
また、「桐ヶ丘子ども憲章」を推進する。



## 2 具体的な活動

### (1) 調整や話し合い

年度当初、運営委員会において、今年度の活動の方向性を確認した。3回の学校ファミリーの日に、一回目は桐ヶ丘中学校で全教科の授業、二回目、三回目は小学校2校で同日に授業を実施し、それぞれを参観し協議会を行い「教科・領域」を中心とした授業実践を行う。

- 7月20日（木） 15：00～ 提案授業に向けての打合せ会 赤西小、八幡小
- 12月25日（月） 15：00～ 提案授業に向けての打合せ会 桐郷小、袋小

### (2) サブファミリー全体での活動

#### ① 桐ヶ丘中学校 平成29年6月21日（水）

全クラス、全教科、道徳の授業実践を公開した。各分科会（国語・数学、英語・理科・社会・音楽・美術・体育・技家・道徳・特支）から、発表ボードに意見をまとめ、全体発表をおこなった。

#### ② 八幡小学校 平成29年9月6日（水）

##### 【道徳】第2学年1組

授業者 西澤 亜也子先生

講師 前桐ヶ丘郷小学校長 木村 良平先生

##### 【体育】第5学年1組

授業者 叶 こみち先生

講師 帝京平成大学非常勤講師 清田 茂先生



#### ③ 赤羽台西小学校 平成29年9月6日（水）

##### 【道徳】第1学年2組

授業者 友寄 舞先生

講師 前赤羽台西小学校 根岸 永福先生

##### 【体育】第3学年1組

授業者 藤倉 基裕先生

講師 東京学芸大学附属竹早小学校主幹教諭 佐藤 洋平先生

##### 【国語】第6学年1組

授業者 望月 由貴先生

講師 都小国研元会長 今村 久二先生

④ 袋小学校 平成30年1月24日(水)

【道徳】第2学年1組

授業者 市野 友子先生

講師 前浮間小学校長 渡邊 三枝子先生

【体育(保健)】

第6学年1組

授業者 菊池 美紀先生 阪本 まなみ先生 田片 博子先生

講師 桐ヶ丘中学校長 千葉 千恵先生

⑤ 桐ヶ丘郷小学校 平成30年1月24日(水)

【道徳】第2学年3組

授業者 山崎 翔先生

講師 前桐ヶ丘郷小学校長 木村 良平先生

【体育】特別支援学級

授業者 酒井 亮先生

講師 教育支援担当課統括指導主事 関口 達紀先生

【社会】第5学年1組

授業者 杓掛 貴子先生

講師 江戸川区立大杉第二小学校長 奥澤 弘子先生

### 3 成果と工夫した点

- ① 各小学校において、2校同時に提案授業を行い、各自のねらいに応じて参観授業を選択し協議会に参加した。「教科・領域」による提案授業中心の実践ができた。
- ② 昨年に引き続き、中学校での分科会において、発表ボードを使用してまとめ、発表を行った。このことで、発表の具体化と時間短縮が図られた。

### 4 課題と改善の方向性

つまずきゼロプランをもとに、小学校と中学校が連携し、接続を円滑にするように努力と協力がなされているが、さらに「授業力向上」を目指して、指導技術を相互に高めていく必要がある。

## 神谷中サブファミリー（神谷中・神谷小・稲田小）

### 1 交流・連携の方向性

- (1) 「交流・連携」から「一貫」へ、義務教育9年間の学びの連続性や校種の特性を生かした「小中一貫教育」に着実に取り組む。【学びのスタンダードの構築】
- (2) 授業研究のための分科会を設置して、全教員がいずれかに所属し、授業研究を行う。
- (3) サブファミリー総合防災訓練を核として、義務教育9年間を見通した防災教育を実施し、地域防災の担い手を育てる。
- (4) 小中学校の教員間の交流を活発にして、教員相互の信頼関係を深めるとともに、言語活動の充実をテーマにした指導案の検討を通して、教員の授業力向上を図る。
- (5) 各小中学校の特色を相互理解し、学校行事やその他の交流を推進する。また、児童・生徒の相互理解を深めるとともに、中学校進学への不安感を除く。

### 2 具体的な活動

#### (1) 調整や話し合い

- ① 4月5日（水）「管理職打合せ」午後4時～4時45分（神谷中）
- ② 4月13日（木）「防災訓練3校打合せ」午後4時～4時45分（神谷中）
- ③ 5月31日（水）「防災訓練3校打合せ」午後4時30分～4時45分（神谷中）
- ④ 7月10日（月）「SF連絡協議会」午後4時～5時30分（神谷中）  
・各校の生活指導・現況報告・情報交換、赤羽警察署より情報提供
- ⑤ 8月30日（水）「SF三部会」午後3時50分～4時15分（稲田小）
- ⑥ 9月30日（土）「SF標語展最終審査会」午後0時～0時40分（神谷小）
- ⑦ 11月28日（火）「百人一首大会打合せ」午後3時45分～4時30分（稲田小）
- ⑧ 1月24日（水）「管理職打合せ」午後4時～4時45分（稲田小）

#### (2) サブファミリー全体での活動

- ① 5月13日（土）「SF合同引き渡し訓練」  
各小中学校会場 午前10時40分～12時
- ② 6月10日（土）「SF総合防災訓練」  
神谷中学校会場 午前8時30分～11時
- ③ 6月15日（木）「小中一貫指導案検討会」  
神谷小学校会場 午後3時30分～4時30分
- ④ 6月21日（水）「北区学校ファミリーの日」



サブファミリー総合防災訓練

- 研究授業・研究協議会・全体会」
- 神谷小学校会場 午後1時40分～4時00分
- ・講師 松本 武志 先生（元西ヶ原小学校長 足立区教育委員会教科指導専門員）  
大塚 順司 先生（北区立神谷小学校長）  
関根 克洋 先生（北区立神谷中学校副校長）
- ⑤ 8月30日（水）「小中一貫指導案検討会」  
稲田小学校会場 午後3時～3時50分

- ⑥ 9月 6日(水)「北区学校ファミリーの日 研究授業・研究協議会・全体会」  
 神谷中学校会場 午後1時40分～4時  
 ・講師 永井 宏 先生(算数教育アドバイザー 算数数学教育合同研究会顧問)  
 坂下 孝憲 先生(北区外国語教育アドバイザー)  
 上村 文輝 先生(北区教育委員会教育振興部教育指導課教育指導員)  
 関根 克洋 先生(北区立神谷中学校副校長)

⑦ 「サブファミリー標語展」

- ・「命」「愛」「人権」「あいさつ」をテーマに児童・生徒全員から標語を募集
- ・9月に最優秀作品10点を選び、ポスターを作成
- ・校内及び町会・自治会の掲示板にて展示

⑧ 10月2日(月)「神谷中学校体験入学」

- 神谷中学校会場 午後1時30分～4時  
 ・学校紹介・体験授業・部活動体験

⑨ 12月18日(月)「百人一首大会」

- 稲田小学校会場 午後1時30分～3時  
 ・中学1年と小学4年との合同交流戦を実施



サブファミリー農業体験(稲刈り)

⑩ 1月16日(火)「小中一貫指導案検討会」

- 稲田小学校会場 午後3時45分～4時30分

⑪ 1月24日(水)「北区学校ファミリーの日 研究授業・研究協議会・全体会」

- 稲田小学校会場 午後1時40分～4時  
 ・講師 千葉 秀一 先生(世田谷区立二子玉川小学校長)  
 松本 武志 先生(元西ヶ原小学校長 足立区教育委員会教科指導専門員)  
 宗方 隆三 先生(北区外国語教育アドバイザー)

### 3 成果と工夫した点

- (1)「サブファミリー総合防災訓練」及び「小中合同引き渡し訓練」は共に3年目となり、運営方法等が明確になり、小中の教職員が昨年度より見通しをもって指導することができた。そのため児童・生徒への定着も効率良く実現できているようである。
- (2) 昨年に続き「つまずきゼロプラン」の小中一貫学力向上部会を前倒しで開催したため、今年度も小学校6年生で学力向上に取り組める期間を確保することができた。
- (3) 2.(2)で記載した以外に、中学校で行ってきた農業体験学習について、稲作を中心に一部小中合同での実施も3年目となり、地域との連携も含めて充実させられた。

### 4 課題と改善の方向性

- (1) 義務教育9年間を見通した防災教育の核である「サブファミリー総合防災訓練」の実施スタイルが定着してきたので、今後は細部の改善・工夫について検討する。
- (2) 施設一体型小中一貫校(義務教育学校)の設置を見据えた取り組みを確実に展開する。農業体験を全3校で行う等、小中合同で実施する分野を無理なく増やすよう調整していく。また、授業スタイルの検討・研究や生活指導の一貫性等について協議する分科会(三部会)を開催して、3校の一体感をより高める。

## 浮間中サブファミリー（浮間中・浮間小・西浮間小）

### 1 交流・連携の方向性

浮間中サブファミリーでは、研究主題を「自ら考え、判断し、主体的に学習する子どもの育成」とし、特色ある取組を「花・音・風 ―情操教育の推進―」と題して、さくら草の栽培を通して生命の尊重や郷土を愛する心を培うことや、音楽活動や音楽交流を通して連続性・一貫性のある豊かな情操を育む活動を行ってきている。また、今年度も公開授業や「つまずきゼロプラン 小中一貫学力向上シート」の作成・実施を通して、学習に関する小中の学びの連続性を重視した連携を推進する。

(1) 「学校ファミリーの日」を活用した教員の合同研修を通して、学校ファミリーとしての小中一貫教育の方向性を探り、実践していく。

「公開授業」、「全体協議会・分科会」、「中1ギャップ連絡会」等を行う。

(2) 子どもたちがより高い目標や理想に向かって向上しようとする態度を育成するために児童・生徒の交流の機会を設定する。

児童と生徒が合同で行う「音楽交流」、「地域清掃ボランティア」等を行う。

(3) 学校行事等の連携を推進するため、3校の行事の確認と内容を検討し、お互いの学校の教育活動に反映できるようにする。

「合同引き取り避難訓練」、「新入生説明会」、「文化祭参加」、「音楽発表会参加」、「PTA 3校合同連絡会」、「浮間セミナー」等を行う。

### 2 具体的な活動

(1) 推進や運営に関する調整・協議

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| ① 運営委員による方針・目標等の決定 | ② 副校長による内容・方法等の検討 |
| ③ 教務主任による日程・内容等の調整 | ④ 担当者による内容の打ち合わせ  |

(2) サブファミリー全体での活動

① 合同研修会・公開授業

年3回の「学校ファミリーの日」に、公開授業と協議会を実施した。

6月には、浮間中学校で全学級の授業を公開し、授業後は分科会に別れて感想や意見交換、小中一貫教育の方向性等について話し合い、全体会にて各分科会より報告した。

9月には、同様に浮間小学校で全学級の授業を公開し、授業後の分科会では授業についての協議の他、北区基礎・基本の定着度調査の結果(中学1年生)をもとに、学力向上に向けての課題について指導の在り方等を検討し、全体会で共有した。

1月には、同様に西浮間小学校で全学級の授業を公開し、分科会では、中学校でできること、小学校でできること等について、具体的な話し合いを行い全体会で報告した。

② 中1ギャップ連絡会

「学校ファミリーの日」の分科会終了後、「中1ギャップ連絡会」を行った。6月は小学校旧6年生担任と中学校1年生担任が、管理職も含めて子どもたちの様子に関する情報交換を行った。9月には教務主任が、つまずきゼロプランの検討と次年度を見据えた各校の行事予定の摺合せ等を行い、また、3月には、現6年生担任と中学校の教員が中一ギャップ解消に向けての連絡会を実施した。

### ③ 地域ボランティア

8月31日（木）に、各校一斉に例年恒例となった浮間地区の清掃活動に3校PTA及び教職員が子どもたちと共に参加した。

### ④ 合同引き取り避難訓練

9月2日（土）に、3校合同で行った。保護者が中学校から小学校を經由して子どもたちを引き取るという流れで実施した。大きな混乱もなく訓練を終えることができた。

### ⑤ 文化行事交流

10月28日（土）に、浮間中学校の文化祭の舞台部門で、浮間小学校の児童による合唱が披露された。また、浮間中学校の吹奏楽部が、11月11日（土）に浮間小学校の音楽会で演奏を披露し、12月9日（土）には西浮間小学校の音楽集会に参加して西浮間小学校金管バンドと合同演奏を行い、両校の児童との交流を深めた。

### ⑥ 新入生説明会・部活見学

11月21日（火）に、中学校の授業風景の参観と部活動見学・体験を主体に行った。新入生説明会では、浮間中学校生徒会による学校紹介のプレゼンテーションも行われ、中学校の様子を両校の6年生に伝えることができた。

### ⑦ 特別支援教育推進のための「浮間セミナー」の開催

11月20日（月）に、西浮間小学校にて、地域の皆様、幼稚園・保育園・小中学校の保護者・教職員を対象に、講師の先生をお招きし「子どもの力を引き出す上手な関わり方」をテーマに、ご講演をいただいた。



### ⑧ 伝統文化親子茶道教室

長年、伝統文化子供茶道教室として地域の小中学生に親しまれてきた活動を、地域の皆様や保護者からの要望もあり、一昨年度から大人の方の参加も歓迎している。浮間中学校茶道部の生徒の協力のもと、地域と小中学生の交流の場及び健全育成の視点からも有意義な活動となっている。

## 3 成果と工夫した点

- (1) 合同研修会では、今年度も各教科・道徳・特別支援教育からなる9分科会による協議を行い、学力向上や児童・生徒理解に関する共通理解を深めた。
- (2) つまづきゼロプランをもとに各教科における重点指導事項を明確にし、各校の教育課程や学力の状況について、より理解を深め、方策を考えることができた。
- (3) 北区で作成された小中一貫カリキュラムや北区基礎・基本の定着度調査結果を踏まえての研究授業や教育実践を行うことができた。

## 4 課題と改善の方向性

- (1) サブファミリーとして、地域の特色や子どもたちの特性を踏まえた本質的な「連携」を目指して、今後も、地域とともに取り組む視点をもった実践を重ねていく。
- (2) 各種調査結果を分析・考察することにより、学習課題を明確にし、小中共通理解のもと、弱点克服に向けた具体的な取り組みを実施する。
- (3) 小中のデータ交換等、新校務支援システムの具体的な活用法を検討する。

## 田端中サブファミリー（田端中・滝野川第四小・田端小）

### 1 交流・連携の方向性

研究テーマ：「小中一貫教育を視野に入れた教科における連携」

- ・基礎・基本の学習を身に付けさせるための各教科の工夫・ポイント・指導方法
- ・北区基礎・基本の定着度調査結果に基づいた各教科の弱点及び指導の重点の置き方
- ・現状の小中一貫教育における課題、改善に向けての視点
- ・つまずきゼロプランを踏まえた小6・中1の連携における課題

### 2 具体的な活動

#### (1) 調整や話し合い

- ・第1回運営委員会（校長・副校長・教務主幹他）

期日：平成29年5月2日（火）15時30分～16時30分 会場：田端中学校

今年度のファミリー運営委員会担当校：田端中、ファミリー活動報告：滝野川第四小、三校連絡協議会担当校：田端小

内容：年間活動予定日程確認、分科会組織の確認、オープンスクール・その他の活動予定の確認

- ・第2回運営委員会（校長・副校長・教務主幹）

期日：平成30年1月25日（木）16時00分～17時00分 会場：田端中学校

平成30年度活動予定の確認、分科会組織の変更、オープンスクール・その他の活動予定の確認、運営方法の検討・改善

#### (2) サブファミリー全体での活動

- ・第1回学校ファミリー合同研修会 会場：田端中学校

日時：平成29年6月21日（水）13時40分～16時00分

内容 授業参観5校時、7分科会ごとの協議会、全体会

- ・第2回学校ファミリー合同研修会 会場：田端小学校

日時：平成29年9月6日（水）13時40分～16時00分

内容 授業参観5校時、7分科会ごとの協議会、全体会

- ・つまずきゼロプラン（小中一貫学力向上）部会 会場：田端中学校

日時：平成29年9月21日（木）15時30分～16時30分

内容：田端中教務主任及び各教科担当教員と小学校2校第6学年担任による学力課題についての検討会を実施し、課題解決に取り組む

- ・田端学びの郷オープンスクール講座 会場：田端中・田端小・介護施設はくちょう

日時：第1回 平成29年9月22日（金）13時30分～15時30分

第2回 平成29年10月21日（土）9時00分～11時00分

内容：ファミリーの児童・生徒が学年を越えて学び合う。その道の一流の先生から、その仕事や一芸に取り組む「心・技・情熱」を学ぶ

- ・ファミリー小学校6年生体験入学 会場：田端中学校

日時：平成29年10月5日（木）13時40分～15時00分

内容：生徒会による学校紹介、部活動体験

- ・第3回学校ファミリー合同研修会 会場：滝野川第四小学校  
日時：平成30年1月24日（水）13時40分～16時00分  
内容 授業参観5校時、7分科会ごとの協議会、全体会

### 3 成果と工夫した点

- ・これまでの連絡会方式から、運営委員会方式に変更し、学校長・副校長・教務主幹が参加して、学校ファミリーの交流・連携の方向性を確認し、改善策について話し合うことができるようになった。
- ・ファミリー合同研修会での事前授業や指導案検討の機会が十分取れず、教員同士の交流がファミリーの日に当日中心の意見交換・課題検討に限られていた。第3回のファミリー合同研修会の授業研究では、校務支援システム・メール・ICT等を活用して指導案の検討を行うなど、事前の各分科会教員の交流・連携に取り組んだ。

### 4 課題と改善の方向性

- ・連絡会方式から運営委員会組織に変更し、小中3校の校長が会議に参加し、各校長のリーダーシップのもとに、ファミリーの活動内容や事業計画の見直しを行った。小中3校教員の交流・連携の機会を今まで以上に考慮し、ファミリーの連携授業や児童生徒の情報交換などを深め、児童・生徒に関わる共通理解によってファミリーの一体感を高めた小中一貫教育を推進していく。
- ・これまでの授業分科会の運営について、現在、国語、社会、算数、理科、外国語活動・英語、健康教育・心の教育、芸術・図工・美術・音楽の7分科会で行ってきた。次年度は、健康教育と心の教育を分離し、8分科会体制で授業研究を行うことを確認した。
- ・児童・生徒の生活指導面での情報交換を小中教員で共有し、ファミリーの小中連携や一貫に活かしていく。
- ・オープンスクールについては、10年の区切りを経ている。既存のファミリー行事を含めた見直しにも考慮しながら、田端中学校区ファミリーの連携・協働を深めていく。

#### 学校ファミリー活動の様子（オープンスクール）

着付け教室



キンボール





# 滝野川紅葉中サブファミリー（滝野川紅葉中・滝野川第二小 ・滝野川第三小・谷端小・滝野川もみじ小・たきさん幼）

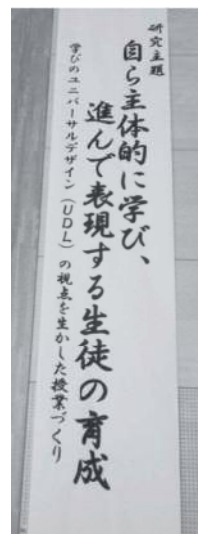
## 1 交流・連携の方向性

- (1) サブファミリー5校1園で児童・生徒の発達段階における学習経験や学習特性についての理解を深め、実態を踏まえた学習改善の方策についての研究を深める。
- (2) 「言語活動の充実とコミュニケーション能力の向上」を共通の授業研究テーマとし、教科ごとに授業交流と情報交換等を行い、中1ギャップの解消と教員同士の連携を深める活動を行う。
- (3) 伝統野菜の「滝野川ごぼう」等の栽培や標語の作成など、滝野川地区の特色ある教育資源を活用し、地域に誇りをもつ活動や地域とかわる活動を行う。
- (4) 小中一貫教育に向けた具体的な取り組みを行う。



## 2 具体的な活動

- (1) 調整や話し合い
  - ・年度初めに5校1園の校園長で、昨年度末に作成された本年度の活動計画、年間指導計画について、確認し方向性を定めた。
  - ・5月9日に滝野川紅葉中校長・各校副校園長・主幹教諭が集まり、サブファミリー運営委員会を実施し、部会の組織、運営方法、構成員の確認等を行った。
  - ・教務主任・生活指導主任は随時連絡を取り合い、方針の共通理解、日程調整等を行った。
- (2) ファミリー全体での活動
  - ①幼稚園・小学校は「思いやり」、中学校は「絆」をテーマに標語を募集し、審査後、関係各所に掲示した。
  - ②授業交流は、国語、社会、算数・数学、理科、外国語活動・英語体育・保健体育、専科（音楽、図工、美術、技術・家庭）の7教科の分科会で、「言語活動の充実とコミュニケーション能力の向上」を研究テーマに実施した。
    - ・6月21日は滝野川第二小学校、9月6日に谷端小学校で各教科分科会の授業参観及び分科会別研究協議会を行った。
    - ・1月30日は滝野川紅葉中学校で、分科会ごとに、授業研究及び協議会を行った。また、この日は、滝野川紅葉中学校の平成28・29年度 北区教育委員会研究協力校の研究発表日にもなっており、都内、都外から多くの参観者を迎え、研究テーマ「自ら主体的に学び、進んで表現する生徒の育成～学びのユニバーサルデザイン（UDL）の視点を生かした授業づくり」についての研究授業が行われた。



また、早稲田大学大学院教授の高橋あつ子先生に「学びのエキスパートを育てる教師集団の歩み」というテーマで講演を行っていただいた。

### ③「滝野川ごぼう」等の栽培

- ・地域の方々と連携し、子どもたちの活動を支援できる体制を作った。谷端小学校では、自然を慈しむ心を養うこと、食の大切さを考えること等をねらいとして、栽培活動を日本農林社のご指導のもと行っている。

4年生では滝野川ごぼうを収穫し、給食でごぼうピラフにいただいた。



### ④体験入学

- ・11月24日にサブファミリーの小学6年生を対象に、新入生体験入学を実施した。中学校教員による各教科の授業、生徒会役員による滝野川紅葉中学校の説明を聞いた。



### ⑤六校連キンボール大会

- ・12月2日（土）、滝野川紅葉中学校体育館の明るく温かい雰囲気の中、北区地域スポーツ推進委員のみなさんのご協力により、熱戦が繰り広げられた。



## 3 成果と工夫した点

- (1) 授業研究を通して、発達段階における各教科の効果的な指導のあり方を探究することができた。事前に指導案検討会を行なうことで、授業の目的や目的達成のための手段の検討など多くの成果を収めた。
- (2) 4月に実施した北区基礎・基本の定着度調査の1学年国語、算数、理科、社会の結果を基に、「つまずきゼロプランシート」を作成し、小中学校で共有することで、学習のつまずきを確認し、そのための足場かけを検討・確認することができた。
- (3) 研究授業及び研究協議会は、各回ともに全領域で講師をお招きし、指導助言をいただくことができた。小・中一貫教育カリキュラムに関する講話も聞け、今後の研修につながるものとなった。

## 4 課題と改善の方向性

- (1) サブファミリーとして、地域の特色や特性を生かした小中一貫教育の実現に向けた研究授業や交流を一層充実させる必要がある。
- (2) 今後は、新学習指導要領実施に向けて、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点から学習過程の改善」に関する具体的な取り組みを実施していくことが課題である。

## 飛鳥中サブファミリー（飛鳥中・滝野川小・西ヶ原小）

### 1 交流・連携の方向性

これまでに継続してきた基礎学力向上、児童・生徒交流を3つの柱として、小・中連携教育の推進を充実する。

#### 育てたい子供像

- 1 意欲的に学習に取り組み、自ら学力を伸ばす子供
- 2 自分の良さを知り、他者を思いやり協力し合う子供
- 3 明るく元気に進んで運動する子供
- 4 地域に生き、地域を愛し、地域を支える子供



### 2 具体的な活動

#### (1) 全体会

- ① 5月 1日（月）全体会・打ち合わせ会 飛鳥中学校 15時～
- ② 6月21日（水）公開授業（全教科・全学級公開） 滝野川小学校 13時40分～
- ③ 12月23日（土）飛鳥中学校研究発表会（全教科、道徳科・全学級公開） 13時～  
「主体的・対話的で深い学びを実践できる生徒の育成」  
～問題解決的な教科及び道徳科の学習を通して～
- ④ 1月24日（水）公開講座（全学級公開）西ヶ原小学校 13時40分～



#### (2) 分科会の具体的な取り組み

##### 【基礎学力向上】

#### ①算数・数学

- ・小学校の算数公開授業に中学校教員全員参加。（9月）
- ・中学校3年生が小学校6年生に、算数・数学の問題解決型授業を行う。（2月）

#### ②理科

- ・小中合同実技研修会を実施（天体、状態変化について）（8月）

#### ③外国語活動・英語 新入生体験入学における英語科授業体験、見学。（10月）

#### ④道徳

- ・西ヶ原小学校の道徳公開授業に3校の教員が全員参観。低学年・中学年・高学年の各分科会、全体協議会で意見交換会を行う。（1月）

#### ⑤小中連携「つまずきゼロプラン」会議（8月）

## [児童・生徒交流]

### ① 保健

飛鳥中の保健委員会の生徒が、滝野川小・西ヶ原小で保健「たばこの害」についての授業を行う。(12月)

### ② 書写・図工・美術・家庭科

3校で児童・生徒の作品を巡回して、校内に掲示して作品の交流を行う。  
(11月～3月)

### ③ 運動会交流・参加

西ヶ原小運動会に飛鳥中の吹奏楽部が演奏・パフォーマンスを披露。(6月)

### ④ 合唱交流・参加

飛鳥中(1年)・滝野川小(6年)・西ヶ原小(5、6年)が飛鳥中で合同合唱交流。  
混声三部合唱「夢の世界を」  
(11月)

### ⑤ 部活動交流

飛鳥中での新入生体験入学で、各部活動へ体験入部し交流する。(10月)



## 3 成果と工夫した点

- (1) つまづきゼロプラン協議会を8月に行った。現中学校1年生の北区基礎・基本の定着度調査の結果から各教科の課題や、現小学校6年生の学習習慣について協議できた。
- (2) 学力向上に向けた主体的な学びを共通の主題とした研究授業をそれぞれ実施することができた。また、協議会の場を設定したことで情報交換や小中の相互理解が深められた。

## 4 課題と改善の方向性

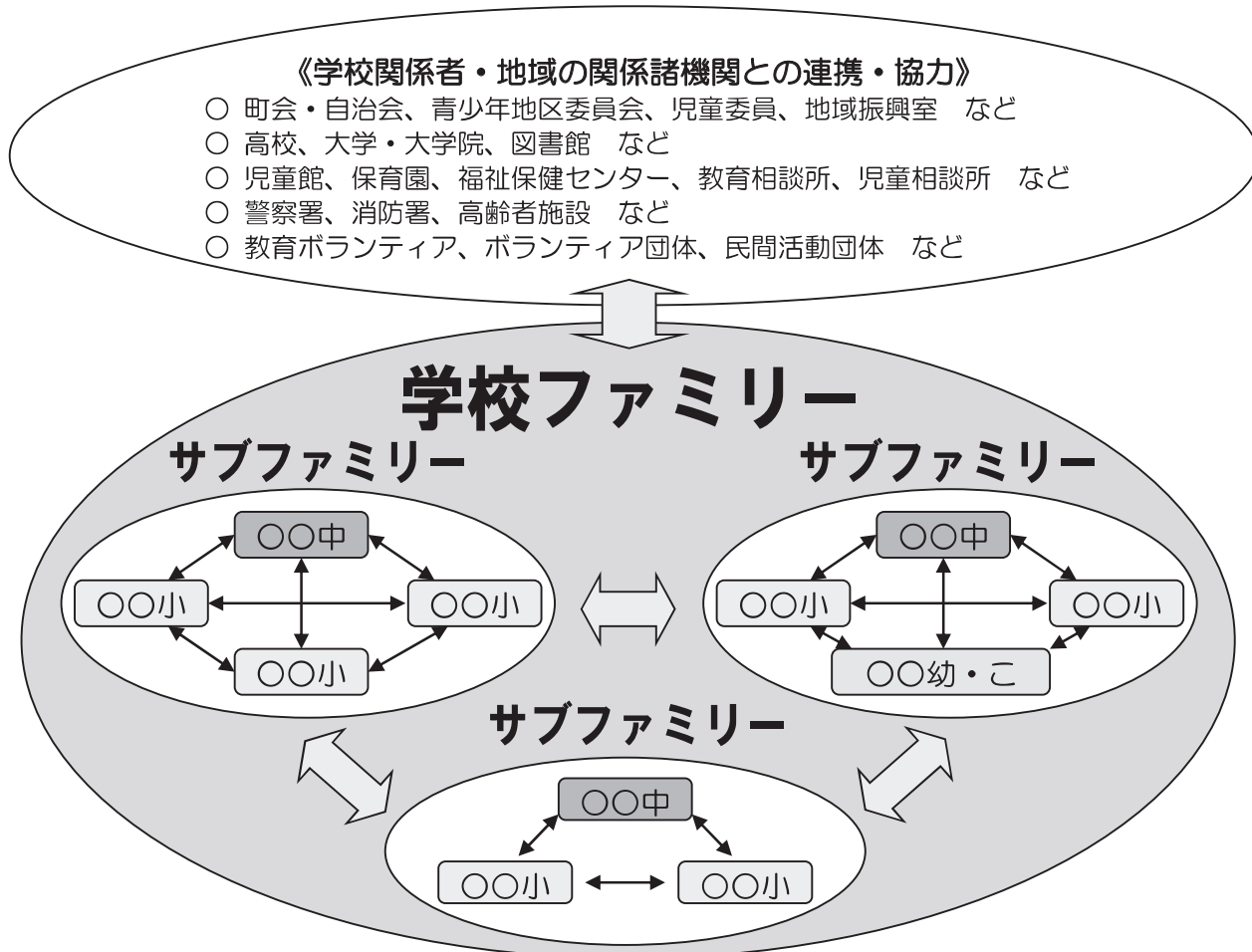
- (1) つまづきゼロプラン協議会は年2回以上行っていく。小中連携による基礎学力の定着や学習習慣の定着を継続して図っていく。
- (2) 各分科会での交流内容を見直し運営方法も含めた改善を図る。小中の時程、カリキュラムの違いを考慮し、分科会の責任者が中心となり、連絡・調整していく。



# 北区学校ファミリー構想概要

## 1 北区学校ファミリーとは

北区学校ファミリーとは、中学校1校といくつかの小学校・幼稚園・こども園からなる近隣複数校のネットワークです。そして、1校だけではできないことを複数校が協力して実践し、質の高い教育を実現しようというものです。（下イメージ図参照）



「北区学校ファミリー構想」は、次のような状況を踏まえて平成15年6月に策定されました。

### 教育課題

- ・ 子どもたちの学習意欲や学力の低下への懸念、生活習慣の変化により直接体験・生活経験の減少、人とかかわる力が低下、体力の低下、中学生・高校生では読書時間の減少
- ・ 地域社会の連帯感の弱まり、就労状況の変化、核家族化により、子育て自体に困難さを生じている

学校の小規模化の中では、個々の学校が単独で新しい様々な課題に対応するには限界

### 改善策

- ・ 地域の学校として同校種間の連携や異校種間の連携・接続、地域の教育資源の活用方法などに工夫・改善を加えた、北区の新しい教育を推進していく

## 2 北区学校ファミリーのねらい

### ①自己革新し続ける新しい学校づくりをめざします

各学校が「開かれた」存在へと変化し、さまざまな外部機関や他校と「結び」柔軟性をもち、教職員、保護者、地域住民も「ともに学び合う」という体制をつくります。そして、常に新しい教育課題に挑戦し、自己革新し続ける新しい学校づくりを目指します。

### ②子どもたちの教育環境を整備します

学校の基盤となる「地域」の拡大を図り、その利点を生かして子どもたちの学びをより豊かなものとしめます。

### ③地域の教育・子育てプログラム全体の改善・充実を図ります

学校間のネットワークだけでなく、学校と幼稚園、こども園、保育園、児童館などとの連携や学校と家庭・地域社会との幅広い連携を生み出し、広域的な地域エリアのなかに、教育・子育てのネットワークを築き上げます。

## 3 学校間連携による5つの効果

### ①教育課程の面

- ・共同のカリキュラム開発、多様な学習活動
- ・地域情報の共有、地域に根ざしたプログラム開発

### ②学校運営の面

- ・学校間の組織的な連携
- ・指導體制の充実（小規模化の中で学校の教育力の維持）

### ③子どもの学びの面

- ・基礎的、基本的な事項の確実な定着
- ・就学前教育の充実による小学校入学に対する不安の解消
- ・小中の交流による相互理解
- ・小学校高学年の中学校進学に対する不安の解消

### ④教員の資質向上の面

- ・子どもや地域の実態に応じた教員研修の実施
- ・授業交流や合同研修会による異校種の学習内容、指導法についての共通理解
- ・小中9年間を意識した的確な子どもへの援助・指導

### ⑤健全育成の面

- ・広い地域での見取り、情報収集力が高まり、関係機関との連携による質の高い対応
- ・保護者や地域との信頼関係の深まり

## 4 具体的活動

学校ファミリーによる学校間連携の内容は次の8項目になります。

- ①情報交換
- ②授業交流（幼稚園、こども園、小学校、中学校）
- ③教員研修の合同実施
- ④共同の教育課程（カリキュラム）の開発
- ⑤学校運営面での連携・協力
- ⑥学校行事での交流
- ⑦関係諸機関、地域の人との交流をもとにした教育活動の推進
- ⑧その他の連携・交流

各地域における取組みは、地域の課題などに応じてこれらのいくつかを選択するかたちになります。

### サブファミリーの活動の様子



田端中 SF 小学校授業参観・合同研修会



王子桜中 SF 小中一貫（算数・数学）授業研究



桐ヶ丘中 SF 幼・小連携 TT 保育・授業



滝野川紅葉中 SF 滝野川ごぼうの栽培



飛鳥中 SF 小・中連携 TT 授業



神谷中 SF ワークショップ型研修

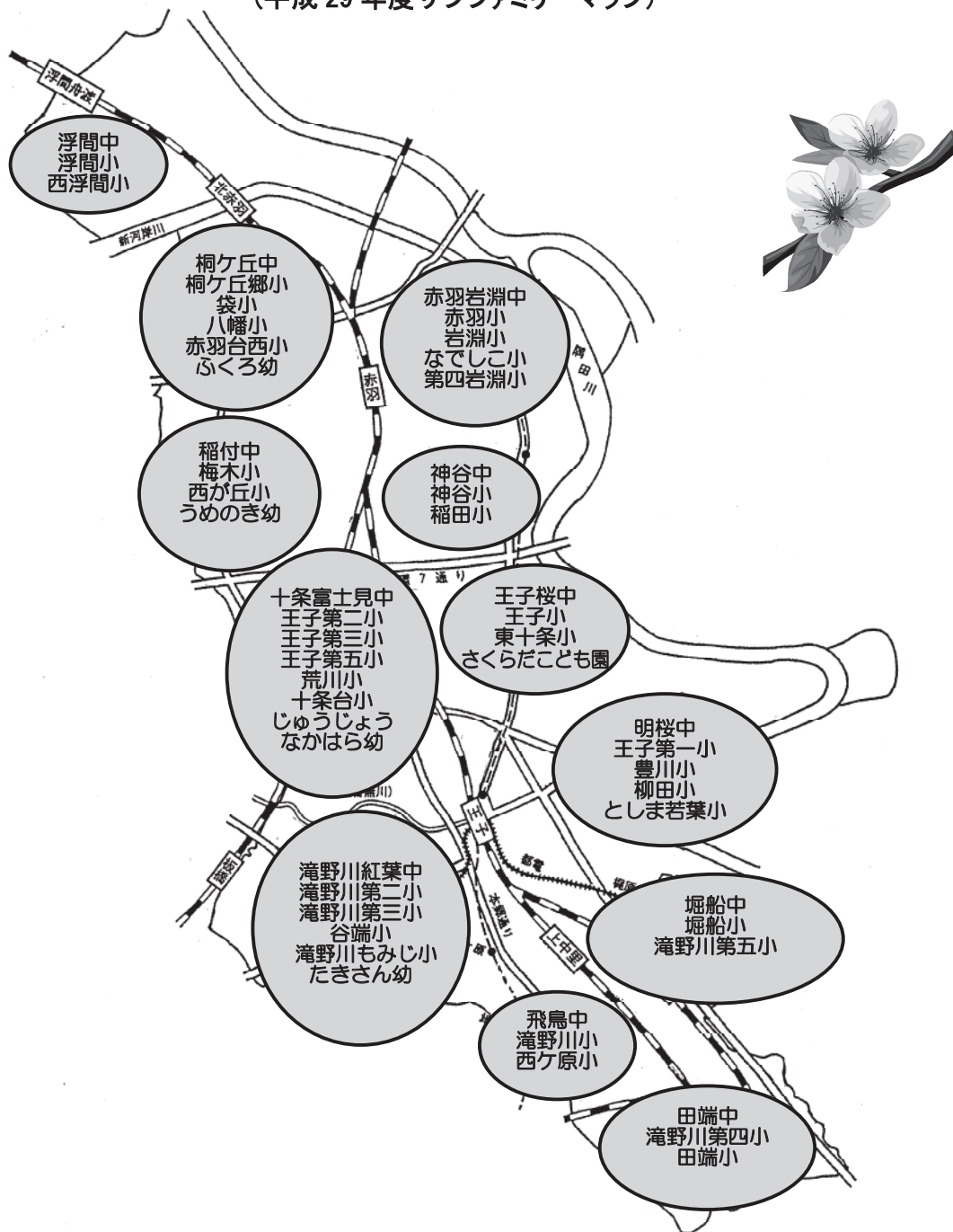
### 「北区学校ファミリーの日」について

北区独自の教育システムである北区学校ファミリーについての理解を深め、啓発を図るため、「北区学校ファミリーの日」を定め、各サブファミリーにおいて研究授業、授業交流、交流事業など、北区学校ファミリー事業を推進し、質の高い教育を目指します。

## 5 エリアの設定

学校ファミリーでは、中学校1校といくつかの小学校・幼稚園・こども園からなる組み合わせを「サブファミリー」と呼びます。

(平成 29 年度サブファミリーマップ)



## 6 今後の目標

学校ファミリーのねらいは、単に「学校改革」にとどまらず、「地域の再生・変革」にまでつながることが重要です。そのために、学校をより開かれた存在とすること、教育ボランティア導入など地域との連携の望ましい姿を研究して子どもの学びに生かすことを目標とします。



## 平成 29 年度北区学校ファミリー事業報告書

平成 30 年 3 月発行

発行 北区教育委員会事務局 教育振興部 教育政策課

東京都北区滝野川 2-52-10

電話 03-3908-9279

FAX 03-3908-1265

刊行物登録番号

29-1-144